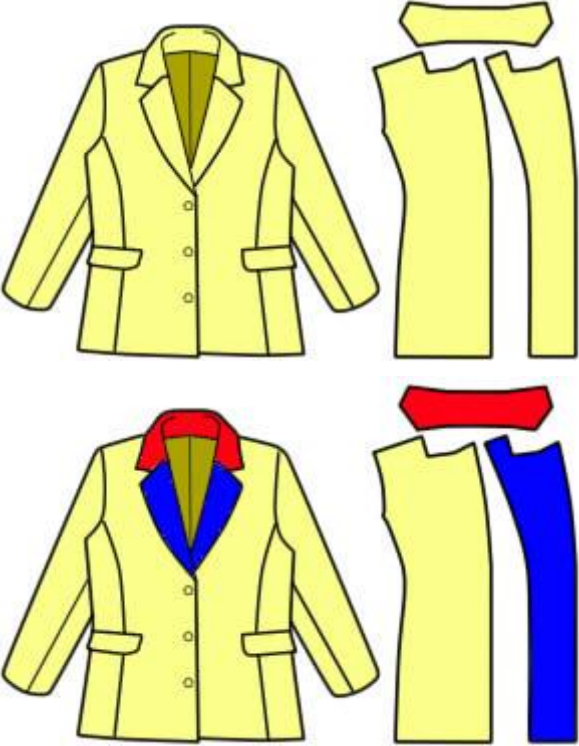
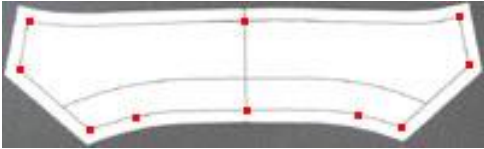
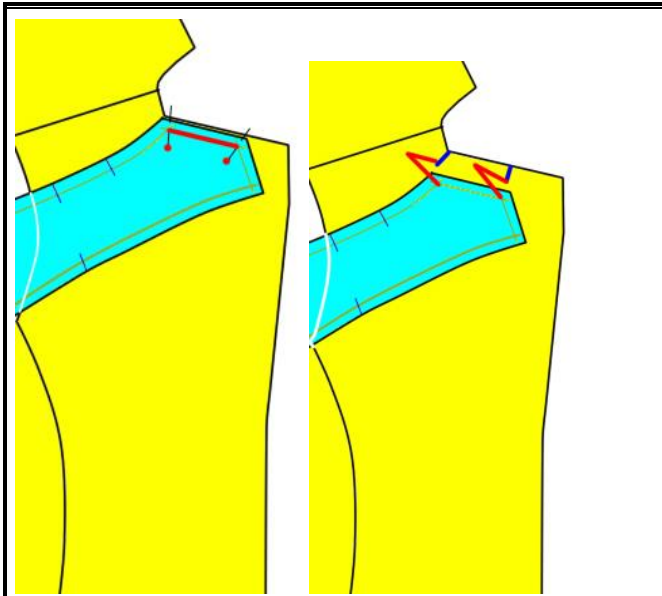


 <p>表 裏</p> <p>接着芯</p>	<p>裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。</p> <p>型紙で指示されたパーツの裏に接着芯を付けてください。</p> <p>くわしくは<a href="#">縫う前の下準備</a>にまとめているので見てくださいね。</p> <p>薄くて柔らかい生地の場合、前身頃の裏全体に接着芯を貼るとしっかりします。</p> <p><b>この時前のダーツにはほつれ止めはしない。</b></p>
	<p>ジャケットのえりと見返しの関係が分からないらしいので色分けしてみました。</p> <p>テーラードジャケットの特徴的なえりは折り返して作られているので、実は青色の部分は見返しなのです。</p> <p>えりや折り返しの部分だけ変えたい場合はえりで見返しの部分だけ色を変えればいいですよ</p>
	<p>前と後ののダーツの真ん中で折って縫ってください。</p> <p>前のダーツの縫い代にほつれ止めをしてください。</p> <p>後中心を縫って下さい。</p>

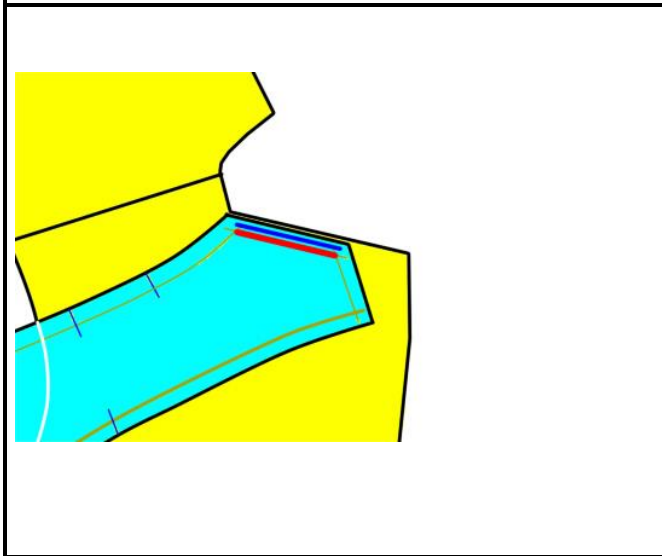
	<p>肩と脇を縫ってください。</p> <p>すその縫い代をアイロンで折り目を付けてください。</p>
	<p>玉ぶちポケットを縫ってください</p> <p>玉ぶちポケットの縫い方は一番下にあります。</p> <p>付けない場合は飛ばしてください</p>
	<p><b>えりの縫い方</b></p> <p>えりの型紙の線の交点と、後中心と、肩縫いが来る位置に必ず印をつけてください。</p>
	<p>接着芯をつけたら衿にしるしを入れてください。</p> <p>表側に来る衿には消えるチャコペンや、表に響かないペンなどで型紙を重ね、上の図であけた穴の所に印をつけてください。</p> <p>裏側は、縫いやすいよう交わるように出来上がり線を図のように引いておくと綺麗に縫えます。</p> <p><b>※見返しにつくほうが表えりになります(折り返して表に来るので)</b></p> <p>裏えりの方に衿起こしの芯を貼る。</p>



えりと、見頃を表同士が内側になるように重ねてください。

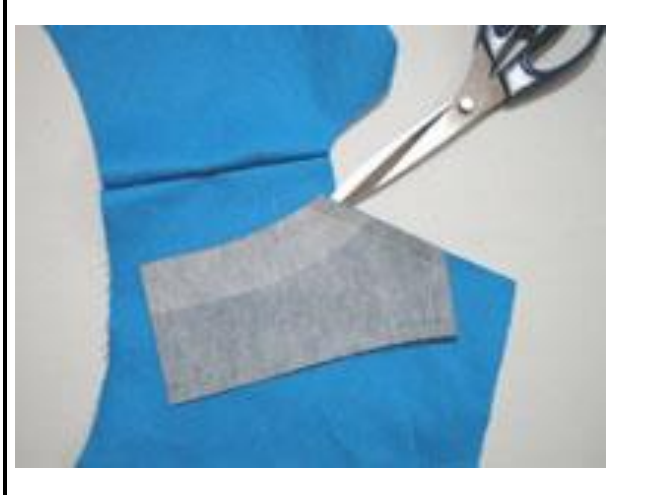
見返しのラペル(胸の反り返った部分)とえりの境の部分の印の切込みと、えり衿の印の位置があうように、真上からまっすぐ針を刺し、固定してください。

肩側の角も衿の印と、身頃の出来上がりの丁度交点になる所に針を刺してください。



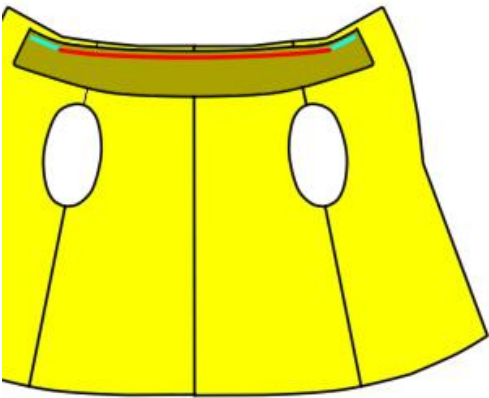
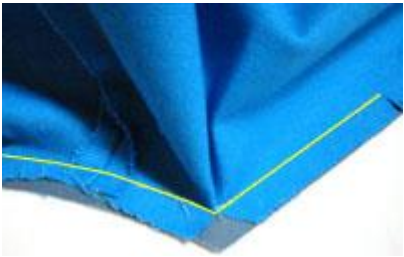
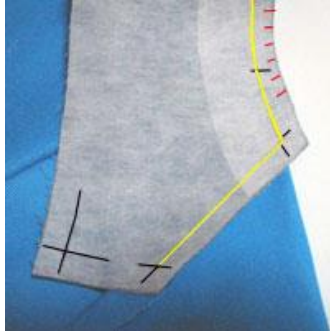
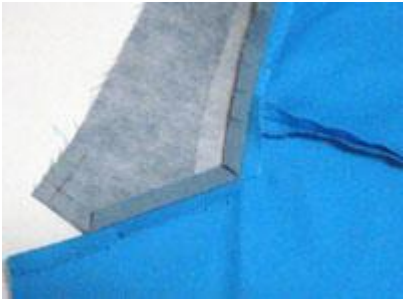
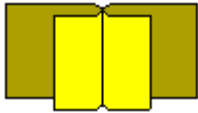
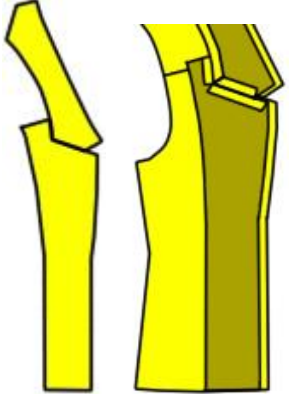
縫い始めは手動で、丁度交点に針が落ちるようにミシンの針をおろして縫ってください。

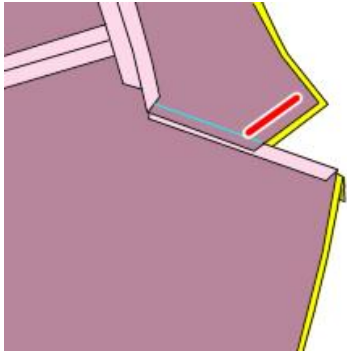
縫い終わりも縫いすぎないように注意して、スピードを落とすか、手動でぴったり交点まで縫ってください。



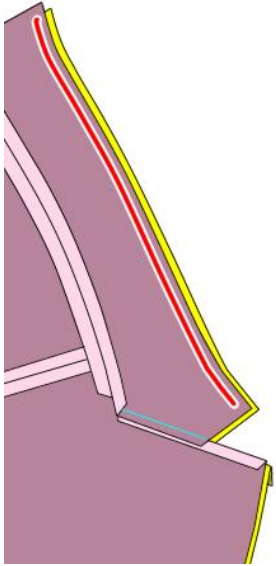
そのままと衿ぐりを縫うとき引きつるので、裏返して、前身頃の角に縫い目を切らないよう気持ち1ミリ残す感じで切込みを入れてください。

(えりの縫い代は切らなくてよい)

 <p>1)</p>  <p>2)</p>	 <p>1) 首の横から後ろを縫います (赤い線の部分) カーブがきついのでミシンで縫うラインより2~3mm離れた所をしつけ糸で縫ってください。 それからミシンで縫うと綺麗に縫いやすいです。</p> <p>2) 出来るだけずれたりしないように角がきちっと合うように縫う。 重なったりずれたりすると表から見たとき引きつったように見えます。 また、余分な生地を縫いこんだりしないように、2番の図のように生地をたたんで、出来るだけまっすぐな状態にして縫うと綺麗に縫えます。 カーブの所は引きつったりゴロゴロしやすいので、ぬいしろに浅く切込みをいくつか入れておくと落ち着きます。 (身頃側も)</p>
	<p>アイロンで縫い代を左右に折ってください</p> 
	<p>見返しにも表と同じ要領でえりをつけます。 身頃とえりが内側が表になるように重ねます</p>

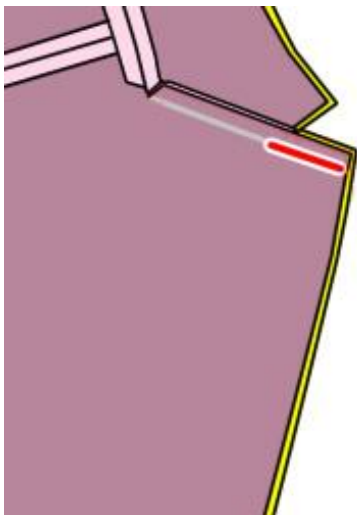


えりの縫い代を縫い込まないようによけて、えりの両端を、2枚合わせて縫ってください。

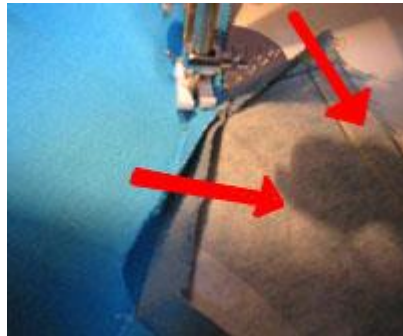


えりの上側を縫ってください。

これも印をしっかりあわせて縫ってください。

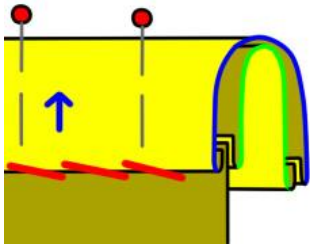


見返しの先からえりの境目までを縫ってください。  
そして、最初に衿を縫った線と、合体するように縫ってください。



この時もえりの縫い代を縫いこまないように注意して、縫い代をよけておきましょう。

	<p>前中心とを縫ってください。        表替えした時、角が引きつりますので、図の赤い部分に縫い糸を切らない程度切込みを入れてください。</p>  <p>前をファスナーあきにする場合は先にファスナーを見頃(胴体部分)に仮止めして、見返しと身頃はさんで縫ってください。        (ファスナーの上は切り込みの位置までです)        表がえす時に先が厚くならないように、縫い目から2mm離れた角を切り落としてください。</p>
	<p>表返してください。</p>
	<p>端から5mmの所をミシンで縫ってください        (こういう縫い方を<u>ステッチ</u>といいます)        こうするとシルエットがぼやけずしっかりします。</p>



えりを閉じてください。

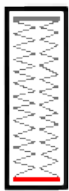
えりは半分折り返しますから、厚み分表に見えるえりと、裏に隠れるえりの長さが変わってきます。

そのため型紙通りにえりの縫い代を折って中に入れると引きつってしまうのです。

なので、自然なカーブになるように出来上がり通りにえりを折って、表に見えるほうの端がずれると思いますが、そのままピンで固定します。

そして、えりのすそを折って内側に入れ、手縫いで縫って行くと綺麗に仕上がります

(表に見えるほうの中に隠れる縫い代がずれの分短くなりますが問題ありません)

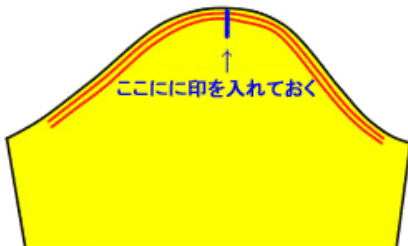


ボタンホールを開けてください。

この時点でボタンホールを開けると、そでが無い分縫いやすいですよ。

ボタンの付け方はミシンによって異なりますのでミシンの説明書をご覧ください。

拡大図→



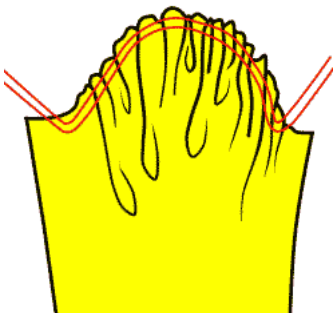
そで山にはそでを立体にする為に余裕が入れられています。

ここでギャザーを寄せておかなければ、そのままつけるとあまってしまうのです。

重要！

この時縫い初めと縫い終わりは、布の端から5センチ以上離れたところから縫い始める

初めと終わりの糸は少し長めに出しておく。



そして裏の方の長く残しておいた糸だけを引っ張りギャザーを寄せます。

(これを一度覚えておくとスカートやいろいろな事に応用がきくので、是非チャレンジしてみましよう！)

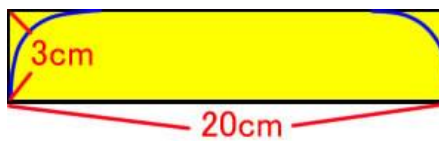
	<p><b>糸調整を元に戻してください。</b></p> <p>2枚のそでを表側が中になるように重ねて両脇を縫ってください。</p> <p>同じように裏地も縫ってください。</p> <p>アイロンでそで口を出来上がり線で折ってください。</p>
	<p>アイロンで縫い代を折り縫ってください。</p>
	 <p>←横から見頃(胴部分)は裏返して、そでは表にひっくり返してください。</p> <p>見頃の中にそでを入れてください。</p> <p>肩と、脇を最初にあわせてまち針でとめてください。</p> <p>縫う場所より2~3ミリ横を仕付け糸を使い縫っておくと、ミシンで縫う時に針を折る心配がなくていいよ！</p> <p>しつけ縫いをしたらミシンでそでぐりを縫ってください。</p>
 <p>肩パットなし      肩パットあり      肩パット+芯</p>	<p><b>肩パットのつけ方</b></p> <p>同じ型紙で作った服の肩パットの有無の比較写真を撮ってみました。</p> <p>自分の作りたいシルエットに近いもので作ってください。</p> <p>肩パット+芯をつけると、市販のスーツのように肩が丸く柔らかく仕上がります。</p> <p>ドミット芯とは目の詰まったわたのシートです。</p> <p>キルト芯よりも密度があってしっかりしています。</p>





ドミット芯をつける場合は

横 20cm縦 3cmに切ってください

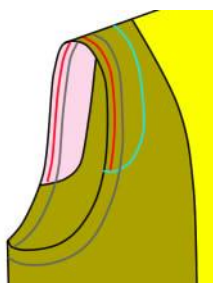


角があると表に形がひびくので、角を丸くしてください。

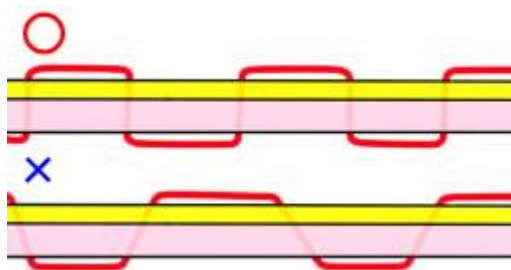
そで山に角を落としたほうが袖口側に向くようにドミット芯をつけてください。



服を裏返した状態で袖の中にドミット芯をつけてください。

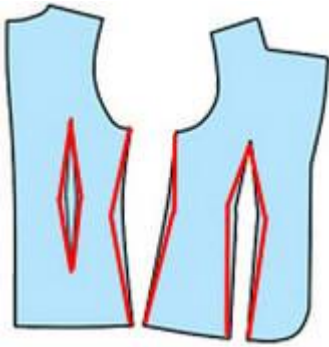


縫う場所は縫い代より外側を縫ってください。

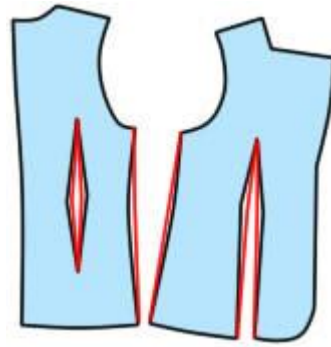


縫い方は手縫いでどんな縫い方でも構いません。ただ、出来るだけ布に対して垂直になるようにして縫ってください。

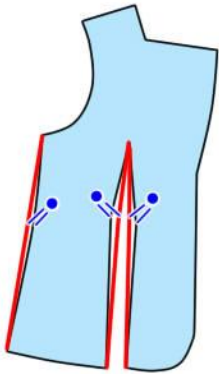
	<p>肩パットは物にもよりますが左右対称ではないものは厚みがある方が前、薄い方が後です。</p> <p>肩山も中央ではないので、中心より1cm前側に印をつけて、そこを肩の縫い代にあわせてください。す</p>
	<p>トルソーをお持ちであればトルソーに着せて、しわが入らないようにピンで固定してください。</p> <p>ポイントは肩パットを出来上がり線より5mmはみ出させる事です。</p> <p>これで袖が肩パットの上ののって丸くなります</p>
	 <p>手縫いで返し縫いをしてそでぐりの縫い代に肩パットを縫い付けて下さい。</p> <p>反対側は手縫いで3~4回肩の縫い代に縫い付けてください。</p>
<p>お好みでそでなどにもボタンをつけましょう</p>	<p>ミシンのボタンホール機能の使い方がわからないという場合は、ボタンを飾りにして、スナップボタンで固定するという方法もあります</p>
<p><b>ウエストを変えたい場合</b></p>	



ダーツを大きくして、脇のウエストを内側に狭くするとウエストが細くなります

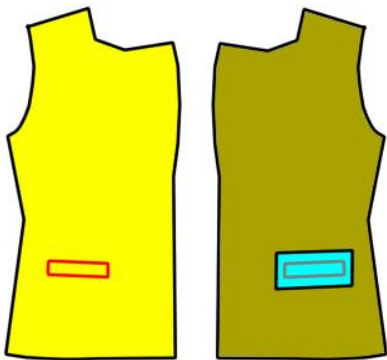


ダーツを小さくし、脇のウエストを外に出すとウエストが太くなります



洋服は左右ありますので上の図の場合 12箇所増減することになりますので、増減したい分量÷12 が●です

#### たまぶちポケットの縫い方



表


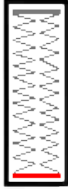
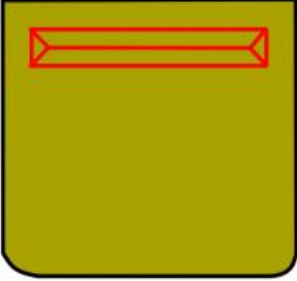
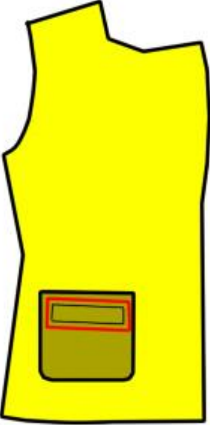
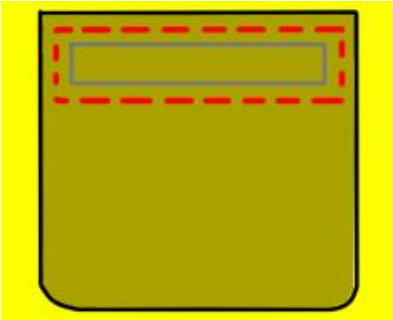
裏

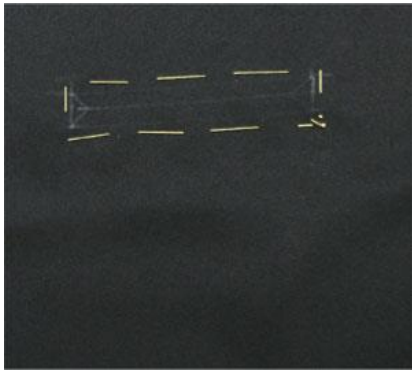
ポケットを付ける位置に印を付けてください。  
ポケットの穴を開ける場所の裏に接着芯を貼ってください。  
型紙についている縫い代の印を忘れずに写してください



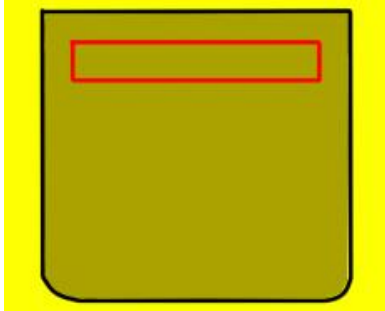
雨ふた付きの服にする場合は先に雨ふたを作ってください。  
2枚重ねた布が内側同士が表になるように重ね(これを中表といいます)縫い代を縫作って

ください。  
ひっくり返すために一部は縫いません。

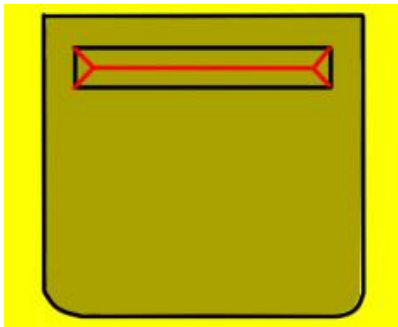
	 <p>表に戻して、アイロンで形を整えてください。 端から 5mmの所を縫ってください。 ボタンを付ける場合は、この時点でボタンホールを開けてください。 ボタンホールの開け方はミシンの種類によって異なるので、ミシンの説明書を参考にしてください。</p>
	<p>ポケット布に型紙から図のように線を写してください。</p>
 	<p>身頃に描いたポケットの印と、ポケット布の印を合わせてください。 この時身頃は表を上、ポケットは裏を上にして重ねてください。 ずれないようにしつけ糸を使って手縫いで固定してください。 印から 3~5mm くらい離れたところを縫ってください。 近くを縫うとミシンで上を縫ってしまったとき、糸を抜くのが大変になります。</p>



裏から見るとこんな感じ

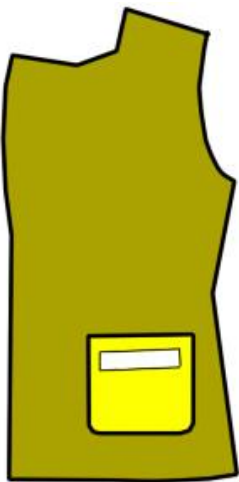


ミシンで四角の印の上を縫ってください。



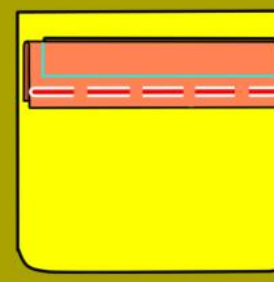
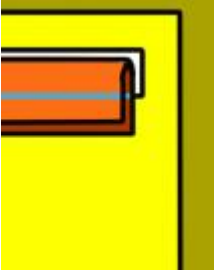
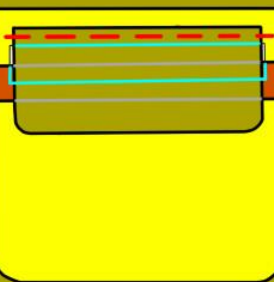
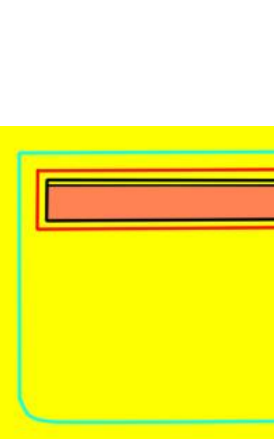
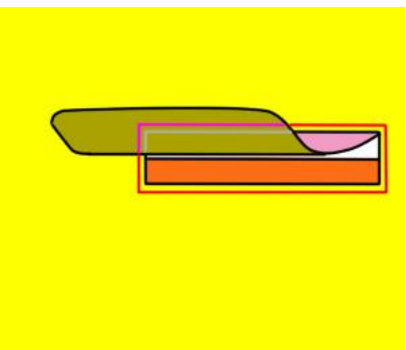


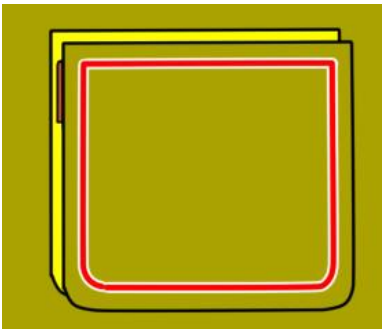
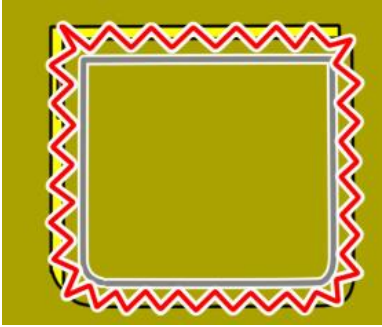
ハサミで赤の印の上を切ってください。

この切り口からポケット布を裏へひっくり返してください。



裏側へポケット布を引っ張り出したなら、形を整えてピンで固定してください。

	<p>穴の端から 3~5mmの所をしつけ糸で縫ってください。</p>
	<p>たまぶち布(オレンジ色の生地)を半分に折ってください。</p>
	 <p>しつけ糸で玉ぶち布、ポケット布、表生地を一緒に縫ってください。 たまぶち布の端から 5mmの所を縫ってください。</p>
	<p>雨ぶたを付ける場合は、雨ぶたを重ね、仕付け糸で端から 5mmの所を固定してください。</p>
	<p>表にひっくり返して、ポケットの穴から 1~2mmの所をミシンで縫ってください。 この時点でしつけ糸は外してください。</p>  <p>雨ぶたつきの場合は、雨ぶたを表に引っ張り出して、余計な所を縫い込まないようによけて縫ってください。</p>

	<p>裏返して、もう一枚ポケット布を重ねてください。</p> <p>ポケット布同士の縫い代を縫ってください。</p>
	<p>ポケット布 2 枚一緒にほつれ止めをしてください。</p>

#### 必要な道具

表布、ボタン 18mm3 つ、そでやポケットにもつける場合は 8 個、接着芯  
そでなどにつける場合は少し小さめのボタンをつけるといいです

#### ポリエステルツイル

化繊なので綿ツイルに比べて軽いです。

しわになりにくいです

張りがあります、パニエを下にはいて広げたい場合に向いていますが、張りがある分柔らかくドレープを出したい場合には向きません。

初心者にも扱いやすい生地です。

化繊は水で縮まないの縦横の織り目が直角に交わるように布を整えて使ってください

#### 綿ツイル

ポリエステルツイルに比べ、柔らかいですが、出来上がった服を着て長い時間座ったりするとシワが入ります。

扱いやすい生地です。

生地によって大きく色落ち、縮むものもあるので使う前に水につけて縮ませてから使ってくださいね

#### ウール

ウールは摩擦で絡み合っ縮みます。その性質を利用してフェルトなどは作られます。

水につけると毛の表面のうろこが開くのでより絡みやすくなります。

あらかじめ縮ませておかないと雨にぬれたりしたときに小さくなってしまう場合があります。

だから摩擦で余計に縮めないように、霧吹きをして袋に入れて満遍なく湿気を吸わせて、自然な収縮分縮めてから使ってください。